

◎銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



11月の銅の概況及び12月の見通し(3)

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると9月の自動車生産台数は前年比+2.3%の82万8,889台であった。

輸出(10月)は40万4,811台で前年同月比-5.2%。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると11月の自動車販売台数(軽除く)は前年比-14.6%の23万8,844台。

内訳は、乗用車-14.5%、貨物-14.6%、バス-23.2%。

【住宅着工戸数】

令和元年10月の住宅着工戸数は7万7,123戸で、前年同月比で7.4%減となった。

また、季節調整済年率換算値では87.9万戸(前年比2.0%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で4か月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で分譲住宅は増、持家及び貸家は減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は、前年比-13.5%の6万3,346t、11か月連続減少。

海外の自動車向け需要を中心に回復の兆しが見えて来ない。ただ、銅板の生産だけは、好調を持続している。

銅条は前年同月比13.4%減少。9ヶ月連続のマイナス。黄銅棒は前年同月比6.9%減少。11ヶ月連続のマイナス。

Copper
“セツツ”はALLOYの専門商社。

専門商社だから出来る豊富な品揃えとの確かな在庫管理は、進化を続ける日本産業にもスピーディーに対応します。

海、陸、空。そして未来へ…。

■ “セツツ”は特にアルミニウム青銅合金(アームスプロンジ)を重点にその優れた特性で様々な業界、あらゆる分野の発展に寄与。

舞台は宇宙へ、深海へ、“セツツ”は未来の要を支えます。

連続鋳造銅合金、ダイカスト製品ほか少ロット製品も迅速対応
在庫常時600t・CopperALLOYのことなら

SSM 摂津特殊金属株式会社

〒534-0011 大阪市都島区高倉町3-1-19

TEL 06(6926)3751 FAX 06(6926)5557

第二倉庫 大阪市都島区内代町4-6-22

第三倉庫 大阪市都島区内代町4-6-4

www.settutokusyu.co.jp

(注意)

日本伸銅協会は、今回の7月報告分より、これまで内需と輸出をわけて報告していた伸銅品の生産量を、内需と輸出を合計した生産量のみに表記を変更した。

内需と輸出は、出荷の確定量のみを報告している。記事中の内需と輸出についてコメントは、日本伸銅協会からの報告時のものを取り扱っている。

【電線】

前年比-6.5%の6万200t。うち、国内は-6.8%、輸出が+9.5%。

【輸出】

電気銅輸出が-23.9%の3万5,373t。

銅スクラップが-18.8%の2万5,183t。

【輸入】

電気銅が-65.7%の1,308t。

スクラップが-12.6%の1万922t。

【見通し】

自動車は生産が+2.3%、国内販売台数が前年比-14.6%。生産は小幅増だが、販売は大幅調整が入り来月も減少か?

伸銅品生産は、前年比-13.5%の6万3,346t、11か月連続減少。米中貿易戦争の影響から約一年連続して前年割れ。来月もマイナスでは?

電線は、前年比-6.5%の6万200t。うち国内は-6.8%、輸出が+9.5%。

こちらも同様に回復期待薄。

銅輸出は、LME価格の下落により減少。

銅輸入は、内需低迷から大幅減少。

来月も続くのでは?

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が69万になったことで、年末要因からそこそこ出てきそう。需要面に関しては足元の生産状況が悪化しており減少。

前月同様に米中貿易戦争から不透明感が強くメーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、及び「香港人権・民主主義法案」の署名に関する対抗措置に左右される。

米中貿易に関しては中国経済もかなり傷んできており、諸々問題はあるものの第一段階の合意をするのではないか?

香港署名の対抗措置に関しては、目新しさがなく、本気度も低いのでは?

これらを踏まえた12月の銅価格は5,800-6,000ドル(セツツ)との予想。

ドル円値は109円~111円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては670-710円程度と予測している。

(「11月の銅の概況及び12月の見通し」終わり)